

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長名
(公 印 省 略)

病害虫発生予察特殊報について

平成29年度病害虫発生予察特殊報第4号を発表したので送付します。

平成29年度病害虫発生予察特殊報第4号

- 1 病 害 虫 名 : トケイソウ東アジアウイルスAO系統
(*East Asian passiflora virus* AO-strain : EAPV-AO)
トケイソウ東アジア奇形ウイルス
(*East Asian passiflora distortion virus* : EAPDV)
- 2 発 生 地 域 : 沖縄本島、石垣島
- 3 発 生 作 物 : クダモノトケイソウ (パッションフルーツ)
- 4 発生確認及び発生状況
 - (1) 平成26年11月に沖縄本島北部における施設栽培のパッションフルーツにおいて、葉の萎縮、モザイク症状や退緑斑紋症状および果実の奇形や木質化が確認された。また、平成29年4月には沖縄本島中部、同年6月では石垣島で同様の症状が確認された。鹿児島大学による同定の結果、トケイソウ東アジアウイルスAO系統(*East Asian passiflora virus* AO-strain : EAPV-AO)やトケイソウ東アジア奇形ウイルス(*East Asian passiflora distortion virus* : EAPDV)の感染が確認された。
 - (2) 沖縄本島北部および中部の各1ほ場でEAPDV感染株が、石垣島の1ほ場でEAPV-AOとEAPDVの重複感染株が確認された。
 - (3) EAPV-AOは、日本では昭和61年に鹿児島県奄美大島のパッションフルーツ交配種(ムラサキトケイソウ)で初発が確認され、一時期は島内全域にまん延したが、現在では収束している。海外では平成4年に台湾、平成21年にマレーシアで発生が報告されている。
 - (4) EAPDVは本県の他、平成25年に秋田県、平成27年に鹿児島県においてパッションフルーツで発生が確認された。本ウイルスは新種ウイルスであり、鹿児島大学により種名の提案中である。
- 5 病 徴
両ウイルスはパッションフルーツに葉の萎縮やモザイク(図1)、新葉の退緑斑紋(図2)ならびに果実に奇形(図3)や木質化(図4)を示し、収量や品質を低下させる。
- 6 病原菌の特徴と伝搬方法
 - (1) EAPV-AOはアブラムシ類によるウイルスの非永続伝搬が確認されているが、接触伝染、汁液伝染、土壌伝染は認められていない。寄主植物としては、アカザ科植物、インゲンマメ(品種により非感染)、ゴマ等が確認されている。
 - (2) EAPDVの伝搬方法及び寄主植物については、現在調査中である。
- 7 防除対策
 - (1) 有効な治療法はないため、発病株は見つけ次第抜き取り、抜き取った株は園内に放置せず、ビニール袋に密閉するか、園地外で地中深くに埋設処分し、感染の拡大を防止する。
 - (2) 感染株からは採苗しない。
 - (3) EAPV-AOはアブラムシによって媒介されるため、アブラムシの防除を徹底する。すなわち、栽培園内および周辺の発生源となる雑草を除去する。
 - (4) アブラムシ類の飛来を防止するため、露地栽培の場合は株をネットで被覆する。施設栽培の場合は開口部に防虫ネットを展張する。目合いは0.6mm以下が望ましい。



図1. 葉の萎縮とモザイク症状



図2. 新葉の奇形退緑斑紋症状



図3. 果実の奇形



図4. 果実の奇形・木質化

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: 098-886-3880

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>